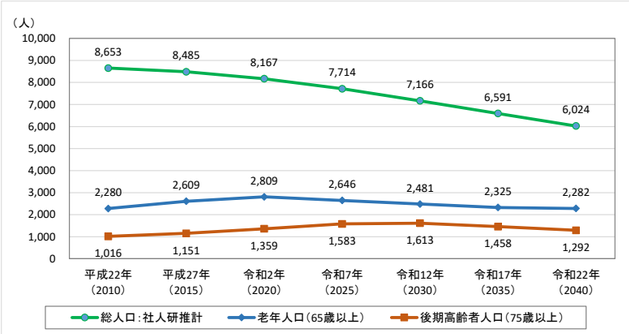
第３章　まちづくりの課題

川西町における人口の将来見通しをふまえて、住民生活の利便性や公共交通の持続性、雇用や教育、地域コミュニティに関する今後の課題、及び課題解決の方向性を以下に整理しました。

【人口の将来見通し】

- 本町の人口は令和 12 年（2030 年）には 7,166 人、令和 22 年（2040 年）には 6,024 人まで減少すると予測されている。
- 年齢別人口の推移をみると、老年人口（65 歳以上）は令和 2 年（2020 年）まで増加、後期高齢者人口（75 歳以上）は令和 12 年（2030 年）まで増加し、高齢化率は令和 22 年（2040 年）で 37.9%になると見込まれている。



【今後、想定される事態】 ／ 【課　　題】

日常生活の利便性

- 総人口が減少することにより、商業施設など、一定のマーケットを必要とする機能の衰退が想定される。
  - ▶ 一定レベルの商圏を維持し、日常生活に必要な機能の維持を図ることが必要
- 高齢者の増加により、介護、医療費ニーズが高まることが想定される。同時に、介護、医療費の増大が想定される。
  - ▶ 高齢者の健康増進につながるような施策の展開が必要

公共交通の持続性

- 通学や通勤利用者層の減少により、公共交通をめぐる経営環境の悪化とサービス水準の低下が想定される。
  - ▶ 公共交通沿線における人口集積の維持を図ることが必要
- 高齢者の増加により、自家用車に頼ることの難しい住民の増加が想定される。
  - ▶ 高齢者の移動手段としての持続可能な公共交通の仕組み構築が必要

雇用環境

- 町内には工業団地があるが、生産年齢人口の減少にともなう労働力不足により、事業の縮小や雇用の場の減少が懸念される。
  - ▶ 女性の社会進出やライフワークバランスを実現する環境整備や、住宅、工業、商業の調和がとれた土地利用が必要

教育・住環境

- 町内には小学校が一校あるが、年少人口の減少により適正な学校規模の維持が困難になる可能性がある。
  - ▶ 子育て世代を呼び込む良好な定住環境の整備が必要
- 空家の増加により、防災や防犯、景観上の問題が大きくなることが懸念される。
  - ▶ 空家等を活用した安価な住宅供給などの住宅対策が必要

地域活力やコミュニティ

- 人口の減少が地域活力の低下につながり、地域間交流が減少することが懸念される。
  - ▶ 玄関口である結崎駅周辺地区の魅力向上が必要
- 郊外の集落地では人口減少や高齢化が顕著に進むため、これらの集落地において地域コミュニティの維持が困難になることが想定される。
  - ▶ 人口減や高齢化が進む地域においても、一定のコミュニティを維持していくための仕組みの構築が必要

自然災害

- 町内は、ほぼ全域が洪水浸水想定区域であり、浸水深が 3m を超える区域や、家屋倒壊の危険のある区域が存在しているため、近年多発している自然災害による被害が想定される。
  - ▶ 災害リスクの回避や低減のため、防災減災まちづくりに取組むことが必要

【課題解決の方向性】

- 人口減少化にあっても、拠点や市街地などに人口レベルを一定程度維持するための対策を講ずる
- 人口や都市機能が維持された拠点や市街地と、郊外の集落地とを公共交通等で結ぶことで町全体としての生活利便性の確保を目指す
- 高齢者が歩いて暮らせ、外に出たくなるようなまちづくりを進める
- 子育て世代や若い人にも魅力のある定住環境を整えるとともに、周辺地域からも人が集まり交流する、賑わいのあるまちづくりを進める
- 頻発・激甚化する自然災害のリスクに対応し生活の安全性向上を図る